令和最初の 岐阜城跡発掘調査

❶ 二ノ門の下

「下台所」曲輪の虎口（出入り口）は「二ノ門」と呼ばれています。両脇の石垣には巨大な石材が使用されており、重要な門であったことが伺われます。

今回の発掘調査で、江戸時代の絵図に描かれているものの、現況では確認することができなかった石垣が見つかりました。残っている高さは約 50cm と余りよくありませんが、絵図には高さ一丈（約３m）と書かれています。発掘では瓦が多く出土しており、二ノ門の門は瓦葺きであった可能性が高いと考えられます。

❷ 天守台北西隅

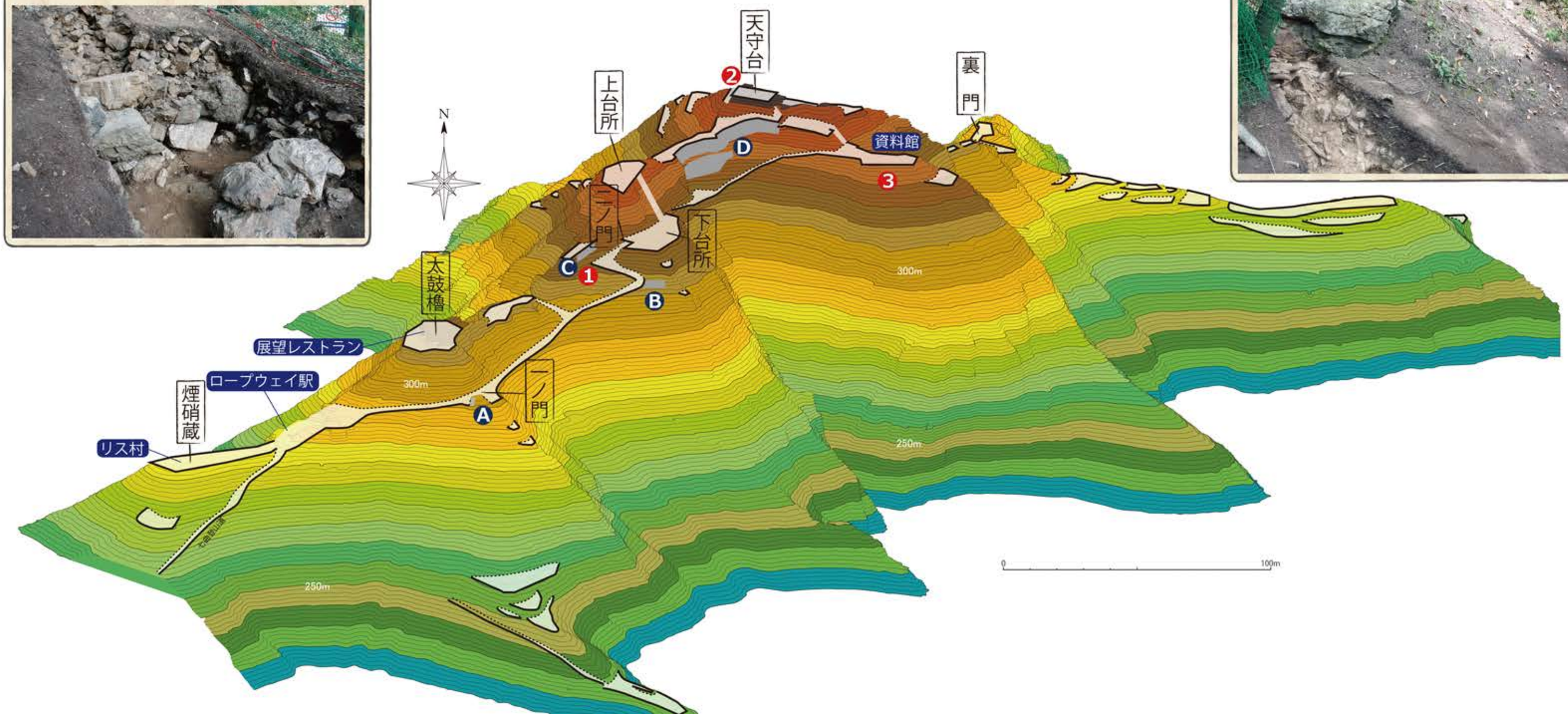
天守の土台である天守台は明治４３年の初代復興天守建造の際に積み直されてしまいました。そのため、戦国時代の石垣はほぼ見ることができなくなっています。

今回の調査で、戦国時代の天守台石垣が初めて見つかりました。石垣は石材のすき間に小さな石を詰め込む間詰め石が残っており、信長による石垣の特徴をよく示しています。安土城で完成したとされる天守の起源を考える上で極めて重要な発見といえます。また、天守台西面の基底部は当時の石垣がわずかながらも残っていることが分かりました。

❸ 資料館南の斜面（非公開）

平成２９年度から実施している分布調査で、資料館の南斜面に数段の平坦地と石垣が見つかりました。これらは絵図にも描かれていないものです。

今回、詳細な様子を把握するために調査を行い、石垣と背面の裏込めを検出し、人為的な地形の改変が行われていることが明らかとなりました。周囲には巨大な石が多数転がっており、実態解明に繋がる発見です。



史跡岐阜城跡発掘調査現地公開資料

令和２年１月14～18日

岐阜城年表

一五二五	大永五
一五三九	天文八
一五四四	天文十三
一五五三	天文二十二
一五五四	天文二十三
一五五六	弘治二
一五六一	永禄四
一五六四	永禄七
一五六七	永禄十
一五六九	永禄十二
一五七六	天正四
一五八二	天正十
一五八三	天正十一
一五八五	天正十三
一五九一	天正十九
一五九二	文禄元
一六〇〇	慶長五
一九一〇	明治四十三
一九四三	昭和十八
一九五六	昭和三十一
二〇一一	平成二十三

建仁年間（1201～1203年）頃、二階堂氏が稲葉山に城を築いたといわれている
長井藤左衛門尉長弘・新左衛門尉（斎藤道三の父？）、守護土岐氏、守護代斎藤氏を追放
このころ斎藤利政（道三）が稲葉山城に拠点をおき、井口城下町を建設
土岐頼純・朝倉氏・織田氏が斎藤道三を攻める
が、加納口の戦いで敗退
斎藤道三、織田信長と富田・聖徳寺で会見
する
斎藤道三、家督を利尚（義龍）に譲る
斎藤義龍に攻められ、斎藤道三敗死（長良川の合戦）
斎藤義龍病死。子の龍興が跡を継ぐ
斎藤龍興、竹中半兵衛らに稲葉山城を占拠され、退城
織田信長、稲葉山城を攻略し、本拠を小牧から井口へ移す。井口を岐阜と改名する
ルイス・フロイス、岐阜来訪
織田信長、安土城へ移り、嫡男織田信忠が跡を継ぐ
本能寺の変（織田信長・信忠自刃）
織田信孝（信長三男）入城
池田元助入城
池田輝政入城
豊臣秀勝入城
織田秀信（信長嫡孫、信忠の子）入城
関ヶ原の合戦の前哨戦で落城。以後廃城となる
岐阜町及び金華山は尾張藩領として幕末に至る
復興天守建造
復興天守焼失
復興天守再建
岐阜城跡国史跡に指定

その他の見どころ

Ⓐ 一ノ門

城の入口となる門の跡。岩盤を削って通路を造り、脇には板状の巨石を立て並べています。全体的な構造や石材の形状が、土岐氏最後の居城大桑城の大手門によく似ており、その時代性から斎藤氏が本拠を構えていた「稲葉山城」時代の痕跡かも知れません。

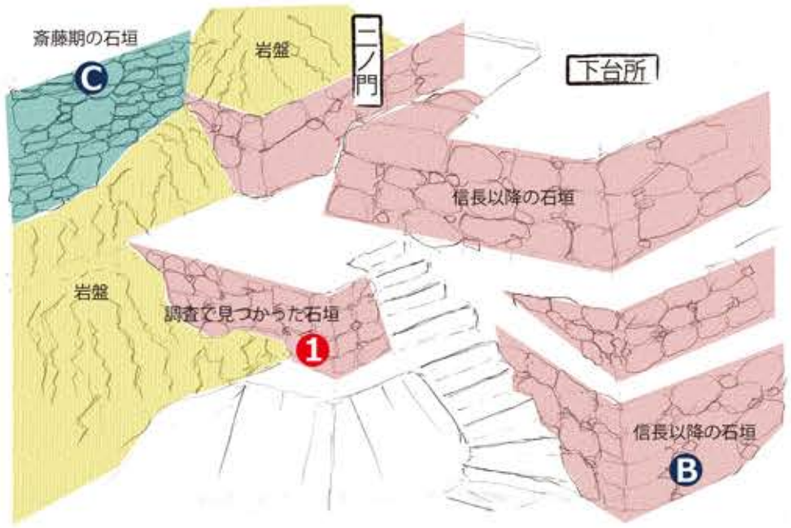
Ⓑ 下台所の基底部の石垣

一ノ門を通り、二ノ門へ向かって進んでいくと正面の上方に「下台所」曲輪が迫ってきます。高低差は１０m近くあり、その高さが城を守る盾となっています。

高さを支えているのが３段に築かれた石垣で、その基底部は今でも見ることができます。積まれている石材は大きく、そのすき間には間詰め石と呼ばれる小さな石を挟み込んでいることが特徴です。このような石垣は織田信長によるものと考えられ、この辺りから天守までの城中枢部を改修した痕跡といえます。

Ⓒ 二ノ門脇の石垣

二ノ門を正面に見ると、左方の岩盤の上に石垣があります。この石垣は、小さく扁平な石を水平方向に整然と積んでいる部分と全く大きさが異なる巨大な石が混在しています。積み方も垂直に積んでおり、石材同士の噛み合わせが表面にあるという特徴があります。これらの特徴はBの石垣と大きく異なっているため、違う時期に構築されたと考えるのがよさそうです。斎藤氏の「稲葉山城」の石垣がそのまま残り、信長以降も再利用された可能性が高いと推測されます。



Ⓓ 天守と上台所を繋ぐ天空の通路

天守台と上台所（アンテナがある場所）の間は、本来、稜線が凹んだ鞍部でした。ここに両脇を石垣で固め、万里の長城のような通路が造られています。石垣は２段で構成され、最大７mの高さに及びます。石垣の様子から信長による構築と考えられます。

岐阜市教育委員会
（公財）岐阜市教育文化振興事業団埋蔵文化財調査事務所